



○南無魔利支尊天守護祈



一 平朝 我門極小紋を穿見る

ありきゆゆ共日也事アルハ

一 他所 行胎向待計を我

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 こと 是も及弟一く不思ハ

一 多き事 有るは 人事  
了る有らんくすく

一 心持 するは 下のみで  
一夜の事 見え 一度 疾  
吉事 する 遠く 打ち 死 伝

一 太刀 眼指 貴始 若日 其業の  
明と 向テ 如 刻 之 通

一 千刻 屋振 神濃 お 屋を  
海多 ひとつ 鬼 魔 成 ころ  
武士の 太刀 口 傳

### 猪身流侍用巻

#### △ 水松明法

一 松やに せ 艾ニ コエ 松粉ニ せいの 必  
イワラニ エンセウニ ツフニ 三ホ  
是物 せいの 行と 入 扱

一 エンセウ 拾 せいの 必 イワラ 七半  
ハ 井ニ 松粉 是物 せいの 行  
い 扱

一 エンセウ 拾 イワラ 拾 せいの 必 ハ 井  
コエ 松粉 七半 モク 井 式 是物 せいの 同  
又 合 茶 コモノ 油ニ テ 子 リ テ モ 同 伝

一 エンセウ 拾 イワラ 拾 せいの 必 ハ 井  
粉 せいの 必 コエ 松粉 拾 せいの 必 七半  
ソフニ 必 是物 せいの 同 伝

#### △ 千松明法

一 エンセウ 拾 イワラ 拾 せいの 必 ハ 井  
せいの 必 松粉 拾 せいの 必  
右粉 せいの 必 南 せいの 必 右 せいの 必  
折 せいの 必 伝

一 エンセウ 拾 イワラ 七半 ハ 井  
せいの 必 松粉 拾 せいの 必  
せいの 必 せいの 必 右 せいの 必

一 米 松粉 せいの 必 せいの 必 伝  
せいの 必 せいの 必 せいの 必 伝  
室 せいの 必 せいの 必 せいの 必 伝  
せいの 必 せいの 必 せいの 必 伝

一 道 火の せいの 必 せいの 必 伝  
せいの 必 せいの 必 せいの 必 伝  
酒 せいの 必 せいの 必 せいの 必 伝

てしの二杉川粉口 是物ニ

もろく二式とら神り右ははは

二米杉附竹事切るをの木長元

二切徳目を向ふは向け

室ねちちこほくに割守早り

二道火の又古布二寸と徳二

酒も消し徳千は寸上りのハ

竹ニッ割て内馬少人の切り

二をねり石の徳火をけけ

二の徳二尺二

二義經大徳牛の内外り

徳けをり徳のゆを合し

二室さの好のくまと指也也

二く妙を入し徳尺

二初火の事二まま七半とい言ふ

二出生二ままがりまま

二けでの血ニテ福をテかさ又二

二河ちく入んとくニイワラワリ

二ハ井ノくんヤアのハヤヤ

二是粉ノニヤウチウの酒古まま

二今ままん一流を合業徳尺

二名の石茶くわり徳尺持く

二馬の咎くくられむけひまあはれ

二業ももあわくになまと七ちつけ

-5 345 35 695" data-label="Text">

二室ねいくくこのふふままを徳尺

二オクノハクハクハクハクハクハク

二而日くくハクハクハクハクハクハ

二徳尺持く徳尺持く徳尺持く

二下腰持く徳尺持く徳尺持く

二一斗米神二母二くくられ皮尺

二入るく徳尺持く徳尺持く徳尺持く

二船小梅二リ丁持く徳尺持く

二下腰持く徳尺持く徳尺持く

二一斗米神二母二くくられ皮尺

二入るく徳尺持く徳尺持く徳尺持く

二野海ノ山大木ノ人ノ物尺

二一斗米神二母二くくられ皮尺

二入るく徳尺持く徳尺持く徳尺持く

二一斗米神二母二くくられ皮尺

二入るく徳尺持く徳尺持く徳尺持く

二一斗米神二母二くくられ皮尺

二入るく徳尺持く徳尺持く徳尺持く

二一斗米神二母二くくられ皮尺

二入るく徳尺持く徳尺持く徳尺持く

二一斗米神二母二くくられ皮尺

二入るく徳尺持く徳尺持く徳尺持く

二一斗米神二母二くくられ皮尺

二入るく徳尺持く徳尺持く徳尺持く

二一斗米神二母二くくられ皮尺

-5 705 35 995" data-label="Text">

二入るく徳尺持く徳尺持く徳尺持く

下腰痛矣

一 山崎の垣石事あるは有之字

一 入る垣石入る人しはめて身所

一 野浜の山崎の垣石事あるは有之字

一 山崎の垣石事あるは有之字

一 甲着浅く又けり人如いれ名

一 徳川玉掛後一守分洞

一 是物小松佃にて六七指以

一 又竹葉をそり湯しては丸有

一 山崎の垣石事あるは有之字

一 徳川玉掛後一守分洞

一 是物小松佃にて六七指以

一 又竹葉をそり湯しては丸有

一 山崎の垣石事あるは有之字

一 徳川玉掛後一守分洞

一 是物小松佃にて六七指以

一 又竹葉をそり湯しては丸有

一 山崎の垣石事あるは有之字

一 徳川玉掛後一守分洞

一 是物小松佃にて六七指以

一 又竹葉をそり湯しては丸有

一 山崎の垣石事あるは有之字

一 徳川玉掛後一守分洞

一 是物小松佃にて六七指以

一 又竹葉をそり湯しては丸有

山崎キイロトシ

仁  
一  
一  
今  
一  
一

△法  
△具  
△右  
△左

△具  
△右  
△左

△右  
△左

△右  
△左

△右  
△左

△右  
△左

△右  
△左

△右  
△左

△右  
△左

△右  
△左

△右  
△左

△右  
△左

△馬  
△用

△右  
△左

△右  
△左

△右  
△左

△右  
△左

右  
秘  
傳  
書  
千  
金  
真  
傳

下  
秘  
言  
云

美  
濃  
守  
正  
友

小  
菅  
興  
三  
清  
利  
光

小  
倉  
氏  
三  
清  
貞  
光

一  
宮  
一  
玄  
秀  
春

菅  
原  
氏  
三  
清  
光  
信

黒  
柳  
傳  
三  
清  
春  
春

説  
田  
甚  
助

能  
田  
甚  
助

寛  
保  
二  
年  
五  
月  
十  
日



三  
國  
二  
部  
書  
殿

寛保十二年五月十日

三國公館藏

金蓮  
抗

一宮一云  
諸君修  
黒柳傳  
説田甚助  
能田甚助